

平成 22 年度 事業報告

公益財団法人 日本レクリエーション協会

目 次

○平成 22 年度の事業運営の概要	3
1. レクリエーション運動の担い手（公認指導者）の育成	6
(1) 都道府県レクリエーション協会と連携した公認指導者等の養成の拡充	6
1) 幅広いレクリエーション運動の担い手の育成事業の促進	
2) 公認指導者養成事業の実施促進	
3) 公認指導者養成事業への地域住民の理解、認知の獲得	
(2) 大学、短期大学、専門学校等の高等教育機関と連携した公認指導者の拡充	7
1) 高等教育機関との連携の拡充（課程認定校制度の普及）	
2) 課程認定校への活動支援	
(3) 高い専門性を持った公認指導者養成事業の強化	8
1) 社会教育、生涯スポーツ振興領域等での専門性を持った指導者の育成	
2) 社会福祉領域等での専門性を持った指導者の育成	
(4) 公認指導者の知識・技能の審査・認定に関する諸事業の実施	10
1) 審査及び認定・登録の実施	
2) 養成及び認定・登録に関する制度、教育内容等の充実	
2. 公認指導者の活動促進を通じたレクリエーション運動の一層の推進	13
(1) 都道府県協会と連携した公認指導者への支援の充実	13
1) 都道府県レクリエーション協会と連携した公認指導者への支援事業の充実	
2) 都道府県レクリエーション協会と連携した公認指導者への支援事業の質の向上	
3) 市区町村レクリエーション協会等地域における公認指導者の組織化の促進	
(2) 日本レクリエーション協会による直接的な公認指導者への支援の実施	17
1) 情報提供の強化	
2) スキルアップのための研修事業の実施	

3. 加盟団体等との連携を通じて、豊かなライフスタイル、 生きがいのある生活の実現を促すレクリエーションの普及・啓発事業の実施	20
(1) 普及・啓発事業の実施	20
1) 日本協会による全国規模の大会、キャンペーンによる普及・啓蒙事業	
2) 企業や民間団体等との連携を通じた普及・啓蒙事業	
(2) 情報提供の拡充	22
(3) 加盟団体による普及・啓発活動の促進	23
(4) 国等との連携・協力を通して、国民各層への健康・生きがいづくりへの貢献	23
1) 生涯スポーツ振興等を通じての健康・生きがいづくりの充実への貢献	
2) 子どもの健やかな育ちを支える地域づくりへの貢献	
(5) 国際交流の促進	29
(6) レジャー・レクリエーションに関わる調査・研究の実施	29
(7) その他のレクリエーション活動の普及・啓発	30
1) 顕彰・褒章制度の整備	
2) 理事会	
3) 評議員選定委員会・評議員会	
4. レクリエーション活動のための用具・書籍等の販売	32
5. 新公益法人制度への対応と財政基盤の改善	32

平成 22 年度の事業運営の概要

日本レクリエーション協会は、「楽しさ」、「遊び」を通して「一人ひとりの豊かなライフスタイルと生き生きとした生涯スポーツ社会の実現」という使命のもとで、レクリエーション運動推進における下記の4つの基本目標の達成に向けて、これまでの重点施策の諸事業をより効率化、合理化を図り、展開した。

1. レクリエーション運動の担い手（公認指導者等）の増加

○新規登録者数については、全体で昨年比 1450 名減少した。

*一般養成（都道府県レク協会、日本協会等で養成）からの登録者数は、福祉レク・ワーカー以外は、レク・インストラクター、余暇開発士、レク・コーディネーターが増加し、全体では 47 名増加。各都道府県レク協会のスポーツ振興センターの助成を活用した事業等による修了証制度の浸透、ボランティア育成サポートセンターの立ち上げなど地道な活動、働きかけの成果と考えられる。

*経済状況の悪化、高齢者介護領域での介護関連制度の改訂及びそれらに伴う課程認定校における養成講座及び受講学生の減少等により、ここ数年の新規登録者数の減少に歯止めをかけるまでには至らなかった。

*課程認定校における養成課程数の減少は、落ち着き始めている。

<平成 21 年：407 講座（59 減）、平成 22 年：385 講座（22 減）、平成 23 年：375 講座（10 減）
・・・（前年度からの減数）>

○登録更新率は、昨年比 6.7%向上した。

*更新率向上の要因としては、登録制度の改正とともに、次項における公認指導者への活動支援の充実に向けた日本協会、都道府県協会等のさまざまな事業の浸透、都道府県におけるボランティア育成サポートセンターなど、指導者への活動の後押しの実策の充実とともに、月刊レクルーを活用した各都道府県協会の事業等の個別の広報・PRの充実等が考えられる。

○指導者養成事業の新たなマーケット拡大につながる企画事業や人材育成に関わる教育内容等の充実を着実に進展した。

*社会教育主事研修、介護領域への就労支援事業及び企業における社員研修への参入などの事業は高評価を得ており、レクリエーションによる対人支援のノウハウを活用し、教育、福祉、企業等様々な領域で必要とされている個人の心の力の強化や個人を支える集団の成熟、成長を支えるための技術や知識を伝達・普及する新たな事業展開の芽として期待がもたれる。

2. レクリエーション指導者への活動支援の活性化

- 都道府県レク協会との連携によるレク指導者への活動支援については、一部スポーツ振興くじ助成を活用しながら、地域協会の活性化にもつながる成果を得ることができた。
 - *平成16年度より実施してきた「あそびの城」づくり推進事業等の継続的な活動支援や潜在的な指導者発掘と結集による事業展開のモデル開発等を全国的に展開した。
- 各都道府県レク協会の組織の状況と具体的な支援要請に対応したきめ細かい個別支援を実施した。
 - *レクリエーション支援の質の向上、都道府県における指導者養成体制の強化に対応し、講師トレーニングセミナー、カリキュラム説明会、人材養成制度等に関する意見交換会等の個別の支援事業を実施。
- 日本協会から公認指導者への直接支援としての情報提供事業を改善し、充実を図った。
 - *月刊情報誌のリニューアルを図り、より読者のニーズに応える情報提供への改善やホームページのコンテンツ充実によるレクリエーションの社会的認知の向上への取り組みにも充実度を増した。

3. レクリエーション活動の普及啓発の拡充

- さまざまな市民向けのレクリエーション事業を加盟団体はじめ、多くのレクリエーション関係団体とともに、レクリエーションを通じた社会貢献事業を展開した。
 - *11月に静岡で開催された第64回全国レク大会、全国47都道府県で984プログラムの展開により19万人以上の参加総数を数えた全国一斉あそびの日キャンペーン事業などを実施した。
- 国やスポーツ振興センターとの連携や助成により、生涯スポーツの推進による豊かなライフスタイル、生きがいのある生活の実現を促す社会への貢献に取り組んだ。
 - *国のスポーツ振興の重要施策である子どもの体力向上を目指し、全国136か所で実施した「おやこ元気アップ事業！」では、保護者への啓蒙等において昨年以上の顕著な成果をあげることができた。
 - *体育の日中央記念行事、生涯スポーツ・体力づくり全国会議、総合型地域スポーツクラブ育成支援事業及びさまざまな人材育成事業、調査研究事業等を通じ、生涯スポーツ社会実現へ寄与することができた。
- 企業やマスメディアとの連携による小学生対象のロープジャンプ大会を通じての子ども達の元気を再創造する事業は、レクリエーション指導者の社会的認知の拡大にもつながった。
- 日中青少年交流やアメリカ、韓国のレクリエーション関係者との交流事業、顕彰制度によるス

ポーツ、レクリエーション普及・振興の功労者への表彰など、レクリエーションの価値の理解、社会的認知の一層の広がりにつながる取り組みにも力を注いだ。

4. レクリエーション活動のための用具、書籍等の販売の拡大

○レクリエーション活動の普及・啓発とあわせて、福祉、教育、地域等様々な領域での豊かな交流促進等に資することを目的としたレクリエーションの用具、書籍の拡充も平成 22 年度の力点としてさまざまな事業を展開した。

*時代のニーズに対応した新たな用具（例：ラダーゲッター等）を開発し、様々な領域での効果的な活用方法等とあわせて普及促進することで、社会からの要請に応えつつ、レクリエーション運動の財政基盤を強化する今後への事業展開の道筋が大きく開かれた。

<特記事項>

○平成 22 年度は、より多くの市民へのレクリエーション活動の啓発と個人の生活課題、社会的課題に対するレクリエーション支援の展開、充実のために、従来蓄積された人材、推進組織、事業実績等をより一層積極的に活用し、内外に効果的に発信することにも力点を置き、質的な転換・拡充を図ることができた。平成 23 年度には、さらにこの成果をレクリエーション運動の財政基盤の拡充につなげられるよう発展させることが目指される。

○こうした新たな発展にも対応すべく、新公益法人制度については、平成 22 年 7 月に公益財団法人への移行申請を行い、平成 23 年 3 月 29 日に内閣総理大臣の認定書交付を受け、4 月 1 日に新公益財団法人への登記を完了した。

○平成 23 年 3 月 11 日に発生した太平洋沖東北地方大地震において被災地当該県レクリエーション協会及び市町レクリエーション協会等において、被災者支援のさまざまな活動が始まった。厳しい状況におかれた被災者に対するレクリエーション支援を展開していく中で、地域生活におけるレクリエーション支援の有効性が改めて明らかになっている。こうした成果は、地域でのレクリエーション活動の活性化を図る際の糸口にもなる。あわせて、全国のレクリエーション協会及び関係者から被災地レクリエーション協会への有形、無形の支援、励まし等において、レクリエーション関係者、愛好者の強い絆、さらにはレクリエーション運動に込められた人間性の豊かさ、奥深さと運動の活力を改めて感じさせる結果となった。

1. レクリエーション運動の担い手（公認指導者）の育成

（1）都道府県レクリエーション協会と連携した公認指導者等の養成の拡充

1）幅広いレクリエーション運動の担い手の育成事業の促進

① 高齢者元気づくりサポーター養成講座＝スポーツ振興くじ助成事業＝

スポーツ振興くじ（toto）助成を活用し、普段スポーツ活動を実施していない運動不足の高齢者に対し、共に活動する仲間とのコミュニケーションの促進（居場所感、安心感の創出）や体を動かすことで得られる心地よさ等を提供しながらスポーツ活動への参加意欲や自己効力感を高め、継続的なスポーツ・レクリエーション活動を促すことができる質の高い指導者の育成を目的に、全国18地区にて指導者養成講習事業を実施し、797名の指導者が誕生した。本講座を受講した人には、高齢者元気づくりサポーターとしての修了証を授与し、今後の活動の後押しと、さらなる学習意欲の向上につなげるきっかけづくりとする。

<実施地域>

青森県、山形県、栃木県、千葉県、新潟県、山梨県、長野県、愛知県、兵庫県、奈良県、和歌山県、島根県、岡山県、香川県、高知県、佐賀県、大分県、沖縄県
各レクリエーション協会

② レクリエーション・ボランティアの学習過程や活動実績をレクリエーション・インストラクター等の公認指導者資格取得の一部単位として認める制度の整備・普及

栃木県小山市において、小山市と協働でボランティア養成講座モデル事業を開催し、その成果を集約し、発信を行った。

③ ボランティア育成サポートセンターの支援

ア. 子どもの居場所ボランティア育成・活性化サポートセンター

イ. 介護予防・認知症予防ボランティア育成・活性化サポートセンター

都道府県レクリエーション協会が設置する子どもの居場所ボランティア及び介護予防ボランティア育成・活性化サポートセンターに対し、モデル事業の成果媒体の提供や、各地の取り組み情報等の提供を行った。

2）公認指導者養成事業の実施促進

① 月刊レクルーを活用して都道府県協会が行う公認指導者養成事業の広報・PRや講習会への職員の派遣等による支援を行った。

② 都道府県協会及び市区町村協会が行う養成事業を担う講師の育成について講師養成トレーニング研修の実施等による支援を行った。

③ 現場に即した学習プログラム等の調査研究開発、都道府県協会と連携した養成事業のモデル開発及び成果の発信等、都道府県協会及び市区町村協会が行う養成事業の効果的な教育内容の伝達講習会を実施した。

3) 公認指導者養成事業への地域住民の理解、認知の獲得

- ① 地域住民にむけた（財）日本レクリエーション協会（以下、日本協会という）のホームページへ、都道府県協会が行う養成事業に係る情報の掲載、及び発信を行った。
- ② 当該都道府県民、民間団体、企業、行政等に向けた計画的な情報の発信等、養成事業に関する広報の充実を図った。

(2) 大学、短期大学、専門学校等の高等教育機関と連携した公認指導者の育成

1) 高等教育機関との連携の拡充（課程認定校制度の普及）

① 平成 22 年度課程認定校 養成課程数

養成する資格種別	養成課程数
レクリエーション・インストラクター認定校	336 課程
余暇生活相談員認定校	2 課程
レクリエーション・コーディネーター認定校	11 課程
福祉レクリエーション・ワーカー認定校	36 課程
合計	385 課程

② 平成 23 年度課程認定校 養成課程数

「公認指導者養成制度」に基づき、公認指導者の養成を行うことのできる大学、短期大学、専門学校の課程認定審査を行った。

平成 23 年度は、前年度に引き続き、学生募集の厳しさや学生を取り巻く経済環境の悪化などから資格取得者数が伸び悩み、課程認定申請を取り止めるケースがあり、減少傾向が続いた。

養成する資格種別	養成課程数
レクリエーション・インストラクター認定校	330（新規：13、減少：19）
余暇開発士認定校	1（新規：0、減少：1）
レクリエーション・コーディネーター認定校	11（新規：1、減少：1）
福祉レクリエーション・ワーカー認定校	33（新規：0、減少：3）
合計	375 課程（新規14、減少24）

※（ ）内は、平成 23 年度の新規課程数、および上記理由を含めて減少した課程数

2) 課程認定校への活動支援

① 領域別課程認定校集会の開催

レクリエーション・コーディネーター養成課程認定校集会においては、養成カリキュラム策定に向けた提案と意見交換、及び今後のスケジュールの確認を行った。

また福祉レクリエーション・ワーカー養成課程認定校集会においては、集会を 2 回に分けて実施し、1 回目は新しい学習内容の模擬講義を実施しその後意見交換を行った。2 回目ではこれまでの検討の経緯を示し、両認定校における新しい学習内容のメリットを確認しながら意見交換を行った。2 回に分けて集会を開催することで、多くの方に情報を提供する機会

を設定した。なお、この事業は課程認定校研究連絡会議との共催で実施した。

資格名	開催期日	会場	参加者数
レクリエーション・コーディネーター	12月23日(木・祝)	水道橋西口会館会議室	16名
福祉レクリエーション・ワーカー	10月24日(土)	①国立オリンピック記念青少年総合センター、水道橋西口会館会議室	① 9名
	11月6日(土)	②静岡コンベンションセンター「グランシップ」	② 10名
余暇開発士	7月12日(月)	日本レクリエーション協会	4名

② 研究、教育組織の育成、支援及び研究者・教育者の育成、支援

課程認定校研究連絡会議と連携し、研究者、教育者の育成、支援及び、関係者で共有できる成果の充実を目指して、10題の授業案、教材開発、効果測定等の研究に対する助成を行った。(成果はレジャー・レクリエーション研究所所報にて公開する)。

(3) 高い専門性を持った公認指導者養成事業の強化

1) 社会教育、生涯スポーツ振興領域等での専門性を持った指導者の育成

① レクリエーション・コーディネーター養成講座

地域活動や都道府県レクリエーション協会等が実施する事業において活躍が期待される実践力のある指導者を養成するために、本年度は静岡県、福井県のレクリエーション協会に協力していただき、地域で実際に行われている事業を題材に講習会を展開した。なおこの事業は、同県で実施されている「都道府県レクリエーション協会の担い手養成事業」の一部プログラムを重複させて実施した。

ア. 通信教育課程新規受講生 26名

イ. 講習会

全国6会場(3コース各2会場)にて2日間の講習会を開催した。

回数	開催地	開催日程	会場	A	B	C
41	静岡	7月31日～8月1日	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」(静岡市駿河区)	15 (9)	-	-
42	福井	10月23日～24日	アオッサ(福井市地域交流プラザ)(福井市手寄)	8 (14)	-	-
43	静岡	11月7日～8日	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」(静岡市駿河区)	-	15 (8)	-
44	福井	12月18日～19日	アオッサ(福井市地域交流プラザ)(福井市手寄)	-	8 (18)	-
45	静岡	1月29日～30日	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」(静岡市駿河区)	-	-	14 (9)
46	福井	2月5日～6日	アオッサ(福井市地域交流プラザ)(福井市手寄)	-	-	6 (22)
合 計				23名	23名	20名

※ ()内は一般の受講生数

2) 社会福祉領域等での専門性を持った指導者の育成

① 福祉レクリエーション・ワーカー養成通信教育課程

学習内容の見直し作業と連動し、スクーリングのプログラムを展開した。今年度も昨年度に引き続きケアプラン等の介護計画とレクリエーション支援をより連動させて実施できるようになることを目指し、学習内容の改編に取り組んだ。この成果は、平成23年度の学習内容改訂やスクーリング内容の決定等につなげる予定である。なお、スクーリングのプログラムについては、一部を一般の受講生に開放し「介護レクリエーション・セミナー」として開催した。

平成19年4月より平成23年3月まで、余暇生活開発士やグループレクリエーション・ワーカーの有資格者に向けて、福祉レクリエーション・ワーカー通信教育講座受講への優遇措置（受講に際して通信講座の受講料やスクーリングの参加費、受験料の免除）を行った。（本年度が最終年）

ア. 通信教育課程の実施

（新規受講生）

第29期（6月開講）	41名（2）
第30期（12月開講）	21名（1）
合計	62名（2）

※（ ）内は、優遇措置の該当者数

イ. スクーリングの開催

回	開催地	会場	日程	受講者数		
				A	B	計
第144回	東京	国立オリンピック記念 青少年総合センター	5/21～23	15（2）	－	15（1）
第145回	大阪	アルフィック大阪 大阪社会体育専門学校	5/28～30	12（2）	－	12（2）
第146回	東京	国立オリンピック記念 青少年総合センター	6/11～13	－	13（2）	13（2）
第147回	大阪	アルフィック大阪 大阪社会体育専門学校	6/25～27	－	12	12（1）
第148回	東京	国立オリンピック記念 青少年総合センター	9/24～26	31（2）	－	31（2）
第149回	大阪	アルフィック大阪 大阪社会体育専門学校	10/15～17	14（3）	－	14（3）
第150回	東京	国立オリンピック記念 青少年総合センター	11/12～14	－	23	23
第151回	大阪	アルフィック大阪 大阪社会体育専門学校	12/3～5	－	16（15）	16（15）
合計				72名	64名	136名

※大阪会場は、1日目「アルフィック大阪」、2・3日目「大阪社会体育専門学校」で実施した。

※（ ）内は一般の受講生数

(4) 公認指導者の知識・技能の審査・認定に関する諸事業の実施

1) 審査及び認定・登録の実施

① レクリエーション・インストラクターの審査・認定登録

区 分	審査期日・会場	登録者数
一 般	各都道府県レクリエーション協会で開催	1,280名
課程認定校	各学校の学内審査により実施	8,143名
合 計		9,423名

② 余暇開発士の審査・認定登録

区 分	審査会期日・会場	受験者数	合格者数	登録者数
課程認定校 (4校)	各学校の学内審査により実施	—	—	41名
合 計				41名

※一般からの受験及び登録者はいなかった。

③ レクリエーション・コーディネーターの審査・認定登録

区 分	審査会期日・会場	受験者数	合格者数	登録者数
一 般	平成23年3月5日、6日 (東京・大阪)	29名	27名	26名
一 般 合 計		29名	27名	26名
課程認定校 (11校)	各学校の学内審査により実施	82名	79名	75名
合 計				101名

※本年度の一般審査会は東京会場と大阪会場各1回ずつ開催した。

④ 福祉レクリエーション・ワーカーの審査・認定登録

区 分	審査会期日・会場	受験者数	合格者数	登録者数
一 般	平成22年8月21日(東京)	16名	15名	15名
	平成23年2月19日(大阪)	33名	32名	32名
一 般 合 計		49名	47名	47名
課程認定校 (38校)	各学校の学内審査により実施	479名	423名	415名
合 計				462名

※本年度の一般審査会は東京会場と大阪会場各1回ずつ開催した。

⑤ 公認指導者資格の更新（平成 23 年 3 月 31 日現在）

（単位：人）

資格名	2010年6月更新		2010年12月更新		総数	
	予定者数	更新者数	予定者数	更新者数	予定者数	更新者数
レク・インストラクター	39,776	19,364	2,256	1,266	42,032	20,630
		48.7%		56.1%		49.1%
余暇開発士	555	360	74	45	629	405
		64.9%		60.8%		64.4%
レク・コーディネーター	1,173	976	257	187	1,430	1,163
		83.2%		72.8%		81.3%
福祉レク・ワーカー	3,459	2,196	158	110	3,617	2,306
		63.5%		69.6%		63.8%
のべ人数	44,963	22,896	2,745	1,608	47,708	24,504
		50.9%		58.6%		51.4%

⑥ 公認指導者数（平成 23 年 3 月 31 日現在）

資格名称	人数
レクリエーション・インストラクター	83,220名
余暇開発士	1,325名
レクリエーション・コーディネーター	2,914名
福祉レクリエーション・ワーカー	7,150名
合計	94,609名

2) 養成及び認定・登録に関する制度、教育内容等の充実

- ① 養成事業、認定・登録事業等全般にかかわるグラウンドデザインとして「レクリエーションの生涯学習体系（仮称）」を策定した。
- ② 生涯学習体系に含まれる個別の公認指導者資格の制度的検討、教育内容面の検討を進め、平成 24 年度での各種公認指導者資格の新たなカリキュラム、学習内容の施行に向けた行程を確定した。
- ③ 有識者の助言に基づき、調査研究に先立つ実績開発として、介護領域への就労支援事業及び社会教育主事研修でのレクリエーション講習の企画・実施及び評価を行った。
 - ・介護領域への就労支援事業実施主体との連携・共同企画によるレクリエーション講座
 - ・川崎市及びNPO法人楽による就労支援事業への参画（レクリエーション講習部分の企画・実施）：8月 受講者30名 評価例89点（満足度）
 - ・横浜市及びNPO法人楽による就労支援事業への参画（レクリエーション講習部分の企画・実施）：10月 受講者30名 評価例91点（同上）
 - ・社会教育主事研修の実施主体との連携・共同企画によるレクリエーション講座
 - ・東北大学の社会教育主事研修への参画（レクリエーション講習部分の企画・実施）

8月 受講者100名 評価例90点（満足度）

- ・国立教育政策研究所の社会教育主事研修への参画（レクリエーション講習部分の企画・実施：8月 受講者80名 評価例90点（満足度）／ 2月 受講者120名 評価例90点（満足度）

④ 企業領域での公認指導者資格及び生涯学習体系に基づくレクリエーション学習の普及・促進にむけた、学習内容の開発及び企業サイドの評価を把握するための社員研修事業を行った。

- ・ANA整備系グループ会社連合研修：7月 受講者73名

- ・(株)タクティー：1月～3月に全国6会場での選抜された社員に対する研修

2. 公認指導者の活動促進を通じたレクリエーション運動の一層の推進

(1) 都道府県協会と連携した公認指導者への支援の充実

1) 都道府県レクリエーション協会と連携した公認指導者への支援事業の充実

① 都道府県協会による公認指導者への支援事業の充実

ア. あそびの城づくり推進事業（参加登録地区への支援）

平成16年度より文部科学省の「子どもの居場所づくり推進事業（事業委託／3カ年）」としてスタートした「あそびの城」づくり推進事業は、平成19年度から自主的なレクリエーション事業として全国で展開しており、平成22年度については、趣旨に賛同する都道府県・市区町村のレク協会やレク指導者のグループにより、全国68地区（※実施地区一覧参照）にて事業を展開した。

また、子どもの体力向上につながる活動プログラムを実施するあそびの城については、日本スポーツ振興センターの助成を受け、活動支援を実施した。

*参加登録

- ・本事業に参加登録いただいた各地区の取り組みを全国展開事業として広くPRを行う。
- ・参加登録地区へは、日本レクリエーション協会、都道府県レクリエーション協会の主催（共催、後援など）として実施。
- ・文部科学省、子どもの居場所づくりキャンペーンへの参画

*広報ツールの提供

- ・横断幕、チラシ等、活動をPRするツール類と合わせ、日本レクリエーション協会サービスセンター用具を支援ツールとして提供。
- ・地域に「あそびの城」を広くPRし、理解や協力を募るため、パンフレットを作成、各地区へ配布。

*情報の共有、発信

- ・「あそびの城」通信による情報発信及び収集
- ・活動報告、レポート等による情報収集（※通信、ホームページ情報の収集）

*全国レクリエーション大会 IN 静岡にて、ポスターコンテストを実施。

- ・「あそびの城」実施地区より、普段の活動中に「あそびの城」の魅力をPRするためのポスターを作成、応募いただき、全国レクリエーション大会にて掲示、PR

平成 22 年度「あそびの城」づくり推進事業参加登録実施地区一覧

都道府県	市区町村	実施主体名称	回数	参加者 (1回)
北海道	帯広市	「あそびの城」(アソ・ビバ)	40	25
	砂川市	滝川レクリエーション協会	11	30
青森県	むつ市	むつ・下北地区レクリエーション協会	6	100
	八戸市	青森県南レクリエーション指導者クラブ	9	10
岩手県	盛岡市	盛岡市レクリエーション協会	6	60
	一関市	大東町レクリエーション協会	15	15
秋田県	秋田市	秋田市レクリエーション協会	15	15
福島県	福島市	福島市レクリエーション協会	17	20
	伊達市	伊達市レクリエーション協会	20	30
群馬県	渋川市	伊香保地区あそびの城運営委員会	18	30
	前橋市	前レクあそびの城運営委員会	22	30
	高崎市	群馬地区スポーツクラブあそびの城	22	30
埼玉県	上尾市	さいたま市「ななさとあそびの城」運営委員会	60	40
千葉県	袖ヶ浦市	袖ヶ浦市レクリエーション協会	15	25
	柏市	柏市レクリエーション協会	12	15
	船橋市	NPO 法人船橋レクリエーション協会	11	15
	鎌ヶ谷市	鎌ヶ谷市レクリエーション協会	11	150
	四街道市	四街道市レクリエーション協会	26	80
	茂原市	茂原市レクリエーション協会	11	30
東京都	練馬区	泉新小あそびの城実行委員会	21	70
	八王子市	特定非営利活動法人八王子市レクリエーション協会	20	40
新潟県	新潟市	新津レクリエーション協会	24	83
	長岡市	希望が丘コミュニティ推進協議会	290	45
	村上市	村上市レクリエーション協会	25	15
石川県	金沢市	(財) 石川県レクリエーション協会あそびの城実行委員会	21	20
	金沢市	(財) 石川県レクリエーション協会あそびの城実行委員会	20	60
福井県	福井市	福井県レクリエーション協会あそびの城実行委員会	39	15
山梨県	山梨市	山梨市レクリエーションクラブ・稲穂の学校	20	12
長野県	松本市	田川地区「あそびの城」運営委員会	45	15
岐阜県	大垣市	NPO 法人大垣市レクリエーション協会	29	50
	岐阜市	岐阜市レクリエーション協会	22	40
	可児市	可児市レクリエーション協会	24	30
	各務原市	川島スポーツレクリエーション協会	20	50
静岡県	静岡市	静岡市あそびの城	22	15
	富士市	富士宮市レクリエーション協会	10	20
愛知県	長久手町	長久手町レクリエーション協会	24	30
京都府	京丹後市	網野あそびの城	30	35
	京都市	さかの「あそびの城」運営委員会	40	40

兵庫県	高砂市	高砂市レクリエーション協会	12	40
	加古川市	加古川市レクリエーション協会	5	50
	加古川市	加古川市レクリエーション協会	6	50
	洲本市	レクリエーション企画“あわじ”	12	20
奈良県	大和郡山市	大和郡山市レクリエーション協会	12	20
	奈良市	奈良市グリーンホール「あそびの城」	15	22
	奈良市	奈良県レクリエーション協会	24	70
	生駒市	生駒市レクリエーション協会	12	15
鳥取県	米子市	西部レクリエーション協会	40	30
	倉吉市	中部レクリエーション協会	10	10
島根県	松江市	まつえレクリエーション協会	10	15
岡山県	和気町	佐伯レクリエーションクラブ和話環 KIDS 実行委員会	200	12
山口県	宇部市	宇部市レクリエーション協会 あそびの城うべ実行委員会	21	35
徳島県	美波町	ゆきあそびの城	10	25
	松茂町	NPO 法人徳島県レクリエーション協会	6	30
	藍住町	藍住レクリエーションクラブ	20	20
香川県	善通寺市	善通寺市「あそびの城」実行委員会	24	30
	高松市	高松市レクリエーション協会	36	20
高知県	香南市	のいちあそびの城	24	30
福岡県	北九州市	北九州市レクリエーション協会	11	20
	北九州市	北九州市レクリエーション協会	11	20
	大野城市	大野城市レクリエーション協会	14	30
	春日市	春日あそびの城	50	25
佐賀県	鳥栖市	鳥栖市レクリエーション協会	3	20
	佐賀市	佐賀市レクリエーション協会	3	30
	久保多町	佐賀県レクリエーション協会	3	30
	唐津市	唐津市レクリエーション協会	3	20
	武雄市	武雄市レクリエーション協会	3	30
	神埼市	神埼市レクリエーション協会	3	20
	多久市	多久市レクリエーションサークル丹邸	3	20

2) 都道府県レクリエーション協会と連携した公認指導者への支援事業の質の向上

① 組織強化を通じた公認指導者への支援事業

都道府県レクリエーション協会のより一層の組織強化を通じて、各団体からの要請や組織の状況により個別に支援事業を行った。

ア. 有資格者フォローアップ事業（セミナー等）及び講師トレーニングセミナー等に関するプログラム作成支援及び講師派遣

イ. レクリエーション・インストラクター養成カリキュラム改訂に伴う説明会支援

ウ. 各都道府県レクリエーション協会の運営に関する各種会議の開催、加盟団体会議、役員・

- 理事等の会議における、各種アドバイス及び必要に応じた職員の派遣
- エ. 登録制度、人材養成制度改訂案に関する意見交換
 - オ. あそびの城の運営及び研修会の開催（モデル開発を含む）に関する支援等
 - カ. 都道府県レクリエーション協会の創立記念事業、法人化事業等の式典への役職員の出席
 - キ. 都道府県レク協会の通信費等のコスト削減につなげる支援策として、都道府県レク協会が発行する会報等を月刊レクルー同封で発送するサービスを実施

② 有資格者支援施策検討会議の開催

都道府県レク協会に共通する課題である有資格者の活動の活性化支援及び、新たなレクリエーションの担い手の育成について、各都道府県レクリエーション協会より1名の参加を得て、以下の通り会議を開催した。

また、登録料交付金の運用内容について、最終的なガイドライン策定に向け、議論を行った。

◎日 時 平成22年10月12日（火）～10月13日（水）

◎場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター

③ 潜在的な指導者発掘と結集による事業展開のモデル開発＝スポーツ振興くじ助成事業＝

地域で活動をしていない公認指導者資格を結集（事業実施グループとして結成）し、まずは小さくても、活動のはじめの一步としてのスポーツ教室、あるいはスポーツ情報の提供などのアクションを住民に対して起こすモデルづくりを全国9カ所で実施した。

なお、本事業は日本スポーツ振興センターの助成を受けて実施した。

ア. 実施地区

北海道、岩手県、秋田県、栃木県、長野県、岐阜県、徳島県、佐賀県、長崎県

イ. 実行委員会開催

指導者の結集と市民向けの事業の企画、事業以降の継続に向けた評価のための会議を各地区4回実施

ウ. 市民向け事業の実施

10月～12月にかけて、集まった指導者の趣味や得意なスポーツ種目等を活かしながら、地域住民を対象としたスポーツ・レクリエーション行事を実施。

④ 加盟団体運営代表者会議

日本レクリエーション協会に加盟する都道府県レクリエーション協会、種目団体、領域団体が一堂に会し、レクリエーション運動の方向性や課題について検討するとともに、1年間の取り組みを相互に評価する場として、平成22年度加盟団体運営代表者会議を2日間にわたり東京において開催した。

1日目は、都道府県レクリエーション協会、種目団体、領域団体の3つの分科会に分かれ、それぞれが抱える課題についての議論、情報交換を行った。2日目は、都道府県レクリエーション協会との議論、情報交換、本協会から加盟団体へのお願い事項及び各種情報提供を行った。

◎期 日 平成21年12月7日（火）～8日（水） 1泊2日

- ◎開催会場 国立オリンピック記念青少年総合センター
- ◎参加者 日本レクリエーション協会加盟団体運営代表者

⑤ ブロックごとの連携・協力

都道府県レクリエーション協会との連携・協調を深めるとともに、全国6ブロックの協力体制の充実及び組織強化・連携調整のための支援を行うため、各ブロックから選出された幹事県と連携し、各種課題について討議するとともに、ブロック間の交流や情報交換の場となる会議を年2回開催、同会議へ職員を派遣した。

◎平成22年6月ブロック会議日程・開催地

ブロック名	日程	開催地	幹事県
北海道・東北	6月26日(土)～27日(日)	花巻市	岩手県
関東・甲信越	6月24日(木)～25日(金)	利根郡	群馬県
東海・北陸	6月20日(日)～21日(月)	岐阜市	岐阜県
近畿	6月25日(金)～26日(土)	大阪市	大阪府
中国・四国	6月19日(土)～20日(日)	鳥取市	鳥取県
九州・沖縄	6月19日(土)～20日(日)	沖縄市	福岡市

◎平成22年2～3月ブロック会議日程・開催地

ブロック名	日程	開催地	幹事県
北海道・東北	2月19日(土)～20日(日)	盛岡市	岩手県
関東・甲信越	2月24日(木)～25日(金)	高崎市	群馬県
東海・北陸	2月20日(日)～21日(月)	羽島市	岐阜県
近畿	2月25日(金)	大阪市	大阪府
中国・四国	3月5日(土)～6日(日)	米子市	鳥取県
九州・沖縄	2月19日(土)～20日(日)	熊本市	熊本県

3) 市区町村レクリエーション協会等地域における公認指導者の組織化の促進

有資格者の活動を基盤とした市区町村レクリエーション協会の育成、活性化を目的に、各団体からの要請や組織の状況により個別支援を行った。

訪問活動として、市区町村レクリエーション協会の創立記念事業(式典)へ役職員の派遣を行った。

(2) 日本レクリエーション協会による直接的な公認指導者への支援の実施

1) 情報提供の強化

- ① 月刊Recrew(レクルー)誌の発行 ((財)日本宝くじ協会助成事業)
題号を「REC」から「Recrew(レクルー)」にリニューアルし、より読みやすく、読者の

ニーズにマッチした情報提供を行うことを目的に編集した。今後の情報媒体の電子化を考慮し、より多くの人々にも親しまれ、レクリエーション協会の認知度を上げていくために、公認指導者だけでなく、一般読者にも楽しんでもらえる紙面作りを視野に入れて企画・制作を行った。

号 別	特 集
平成22年 4月号	笑いはスゴイ
平成22年 5月号	みんなでカラダを動かそう！
平成22年 6月号	水のふしぎ
平成22年 7月号	イベントでみんな元気に！
平成22年 8、9月合併号	イキイキが生まれるところ
平成22年 10月号	心地いい時間
平成22年 11月号	ダンス！ダンス！DANCE！
平成22年 12月号	ことばのチカラ
平成23年 1、2月合併号	これからのマンガ
平成23年 3月号	おいしいはたのしい

② 専門資格取得者向け情報誌の発行・提供（※）

レクリエーション・コーディネーター、福祉レクリエーション・ワーカー、余暇開発士の専門資格を持つ公認指導者に向け、公認指導者が関わる代表的な3つの専門領域についての情報提供を行った。

○良質生活（高齢者、障害者介護領域で活動する方 向け）

号 別	発 行	ページ数	送 付 方 式
13号	平成22年6月	8	月刊Recrew 10年6月号同封
14号	平成22年8、9月合併号	8	月刊Recrew 10年8、9月合併号同封
15号	11月	8	月刊Recrew 10年11月号同封
16号	平成23年1、2月合併号	8	月刊Recrew 11年1、2月合併号同封

○子どもの笑顔（子どもの健全育成、子育て支援領域で活動する方 向け）

号 別	発 行	ページ数	送 付 方 式
13号	平成22年5月	8	月刊Recrew 10年5月号同封
14号	7月	8	月刊Recrew 10年7月号同封
15号	10月	8	月刊Recrew 10年10月号同封
16号	12月	8	月刊Recrew 10年12月号同封

○自適工房（中高年の健康、生きがいづくりの支援等を中心に活動する方 向け）

号 別	発 行	ページ数	送 付 方 式
13号	平成22年6月	8	月刊Recrew 10年6月号同封
14号	平成22年8、9月合併号	8	月刊Recrew 10年8、9月合併号同封
15号	11月	8	月刊Recrew 10年11月号同封
16号	平成23年3月	8	月刊Recrew 11年3月号同封

2) スキルアップのための研修事業の実施

公認指導者一人ひとりの活動の質を高めるための知識や技術を提供する講習事業を、介護領域、保育・幼児教育領域、地域保健・看護領域等、公認指導者が活動する領域の専門家、団体・機関と連携して実施した。

① 現任者研修

公認指導者一人ひとりの活動の質を高めるための知識や技術を提供する講習事業を、介護領域等公認指導者が活動する領域の専門家、団体・機関と連携して実施した。

ア. 介護領域の関連団体、との連携・共同企画による介護レクリエーション研修の実施

- ・千葉県老人保健施設協議会：7月 受講者 60名
- ・横浜市社会福祉協議会：7月 受講者 80名
- ・文京区介護人材支援センター：8月 受講者 36名

イ. 主催の介護レクリエーションセミナーの実施

- ・福井会場（同県内レクリエーション研修担当講師育成・トレーニング兼ねる）
：7月 受講者 36名（講師トレーニング受講者 12名）
- ・岡山会場（同県内レクリエーション研修担当講師育成・トレーニング兼ねる）
：2月 受講者 62名（講師トレーニング受講者 8名）
- ・東京会場：11月 受講者数 60名 / 1月 同 30名 / 2月 同 30名
3月 受講者 30名

ウ. 他目的の研修機会を用いた機会提供

- ・福祉レクリエーション・ワーカー養成課程スクーリングをスキルアップの講座として公開した（同報告部分参照）

3. 加盟団体等との連携を通じて、豊かなライフスタイル、生きがいのある生活の実現を促すレクリエーションの普及・啓発事業の実施

(1) 普及・啓発事業の実施

1) 日本協会による全国規模の大会、キャンペーンによる普及・啓発事業

① 第64回全国レクリエーション大会 IN 静岡

◎主催：(財)日本レクリエーション協会、静岡県、静岡県教育委員会、静岡県レクリエーション協会、静岡市、浜松市、沼津市、富士宮市、富士市、焼津市、掛川市、藤枝市、袋井市、菊川市、伊豆の国市

◎後援：文部科学省、他関係省庁

◎期日：平成22年11月6日(土)～11月8日(月)

◎開催地：静岡県内各会場

◎参加対象：レクリエーション関係者、行政、教育関係者、一般市民など

◎内容：「研究フォーラム」「種目別全国交流大会」「フェスティバル」「開会式、式典」

今年度は、大会初開催となる静岡県で、県内11市を会場に全国各地から3万人を超える参加者を得て、実施された。

総合開会式は、静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」で富士山を表した大きな舞台装置が見守るなか、都道府県レク協会旗が堂々の入場行進を行い、全国47都道府県協会の旗がステージに集結した。続いて静岡を代表する大道芸や一輪車の演技が披露され、参加者を歓迎する幕開けとなった。交歓の夕べは、篠笛の演奏でスタートし、海外からのお客さまをはじめ、全国から集まった大会参加者が交流し、盛り上がりを見せた。また、特別行事等として、ウォークラリー発祥の地で発案者を囲む「ウォークラリーサミット」や「茶・おもてなし広場」、紅葉にそまる大井川鉄道沿線を「山声トレイン」に乗って、歌を楽しむプログラムなど、静岡らしさ満載の行事を展開した。さらに、運営面でも大会前から積極的に指導者養成に取り組むなど、約3000名のスタッフが「おもてなしの心」を前面に出した大会となった。

② 全国一斉「あそびの日」キャンペーン2010

子どもたちに、もう一度「あそび」の楽しさや大切さを知ってもらおうと、5月を中心とした約2ヵ月間をキャンペーン期間とし、全国各地で「あそびの日」を設け、さまざまな「あそび」の場の提供を展開するイベントを開催。

また、子ども達だけではなく、大人達にとっても貴重な機会とし、子どもとふれ合いながら一緒に楽しむ中で、大人になって忘れかけていたものを、取り戻す貴会としても実施。

今年度は、友だち同士のふれあい、家族のきずな、地域との交流と、さまざまな局面での「つながり」の大切さが再確認されることを期待し、「輪・和・わ～!! つながり」をサブテ

ーマとして、全国一斉「あそびの日」キャンペーンを展開。

◎テーマ すべては子どもの笑顔のために

サブテーマ：「輪・和・わ～!! つながり」

◎開催期間 2010年4月17日（土）～6月13日（日）

◎主催 財団法人日本レクリエーション協会

◎共催 都道府県レクリエーション協会／財団法人日本ユースホステル協会
財団法人休暇村協会／財団法人公園緑地管理財団

◎全国後援 文部科学省／厚生労働省／総務省／全国市長会／全国町村会／
財団法人日本宝くじ協会／社会福祉法人全国社会福祉協議会、
社団法人中央青少年団体連絡協議会

◎協賛企業 株式会社ディーエイチシー／亀田製菓株式会社 等

◎プログラムの内容

子どもたちと家族がふれあい、きずなが深まり、地域住民のつながりが生まれる様々な「あそび」の活動、イベントを展開。

スポーツ大会／体験イベント／自然あそび／クラフト／料理づくり／昔あそび
ウォーキング・イベント／踊り／ダンス／体操の会／運動会／チャレンジゲーム大会
など、大小さまざまな活動やイベントを実施

<キャンペーン実施プログラム数、および参加者数>

日本レクリエーション協会加盟団体をはじめ、共催団体として公園緑地管理財団、休暇村協会、ユースホステル協会にも参画いただき、全体で986のプログラムを展開。全国で192,541人の参加者があった。プログラム数、参加者数は以下のとおり。

団体名	プログラム数	参加者総数（人）
(財)日本レクリエーション協会	353	70,898
(財)休暇村協会	21	49,185
(財)公園緑地管理財団	351	38,953
(財)日本ユースホステル協会	259	33,505
合計	984	192,541

③ 第23回全国スポーツ・レクリエーション祭（スポレクとやま2010）

◎主催 文部科学省、日本レクリエーション協会、日本体育協会、
全国体育指導委員連合、富山県

◎期 日：平成22年10月16日（土）～19日（火）

◎開催地：富山県下10市4町1村

◎内容：開・閉会式、都道府県代表参加種目、フリー参加種目、協賛事業、特別行事、
シンポジウム等

10月16日から19日の4日間にわたり、「きときとスポレク きてきて富山」をスローガンに開催された”スポレクとやま2010”は、全国から延べ213千人（4日間累計）におよぶ参加者を得て、盛大に開催された。開会式は、JR富山駅北口近くの富山市総合体育館で行われ、ブラスバンド演奏やチアリーディング、富山に伝わる3つの民謡（おわら、こ

きりこ、むぎや)をスポーツ大会らしくアレンジした舞踊などで全国や韓国からの参加者をお迎えした。式典の最後は、出演者、観客全員で「きときと夢体操」を行い、来場者全員が忘れられない感動と喜びを感じた開会式となった。

また、全国初となる県内全市町村で開催した29の「種目別大会」では、各都道府県の代表選手や韓国の選手らが熱戦を展開するとともに、地域や世代をこえて、多彩な交流を深めた。日本レク協会関係の種目として、都道府県代表参加種目5種目とフリー参加種目6種目および協賛事業の3種目が開催された。さらに、開会式会場ですばらしい天候に恵まれ、2日間にわたって開催された「特別行事」においては、富山県生涯スポーツ協議会のメンバーである富山県レクリエーション協会を中心に例年同様、ボランティアスタッフ一丸となって、各種のニュースポーツ体験コーナー33種目を実施し、趣向をこらしたスタンプラリーの実施などにより、各県選手団や親子連れなどのべ約15000名の方々に楽しんでいただいた。

2) 企業や民間団体等との連携を通じた普及・啓蒙事業

① 団体、企業等からの講師派遣事業、

<平成22年度 講師派遣依頼先>

○団体・企業（順不同）

国立青少年教育振興機構、国立那須甲子青少年自然の家、ANA エアクラフトテクニクス、千葉県老人保健施設協議会、社会教育実践研究センター、介護労働安定センター、沖縄県社会福祉協議会、神社本庁、全日通商事労働組合、有限会社 エル・アール・アイ、財団法人 公園緑地管理財団、NPO 法人 自然体験活動推進協議会、江東区青少年センター、千葉県レクリエーション協会、社団法人三重県レクリエーション協会、社団法人東京都レクリエーション協会、大分県レクリエーション協会、北海道レクリエーション協会

○行政組織（順不同）

江戸川区役所、佐倉市役所高齢者福祉課、練馬区役所健康福祉事業本部福祉部、板橋区教育委員会、川崎市役所保健医療部、取手市役所、坂戸市役所、藤沢市役所、荒川区役所社会教育課

○事業連携：社団法人 家の光協会

(2) 情報提供の拡充

① ホームページの拡充

一般向けサイト、公認指導者専用サイト、都道府県レクリエーション協会サイト、課程認定校サイト、サービスセンターサイト等による情報発信・収集と事務手続きが円滑に行われるよう、管理運営を行った。

月刊 Recrew 誌で制作した誌面をホームページに転用し、レク・オンライン（公式ページ）の定期的な更新を行ったほか、公認指導者の活動事例や用具・書籍の情報発信量・回数、あそび事典で紹介するコンテンツ等を増やした。

② 指導誌出版（特集）

- * 4 月：Recrew、世界あそび事典
- * 5 月：あそび.net、電子版レク・カタログ
- * 6 月：介護現場で役立つスキルアップ研修、介護レクセミナー開催
- * 7 月：レク・インストラクター養成
- * 8 月：第64回全国レクリエーション大会 IN 静岡
- * 10 月：介護レク・セミナー告知
- * 11 月：Recrew 電子版
- * 12 月：ベスト Recrew 大賞発表！
- * 1 月：全国一斉「あそびの日」キャンペーン 2011

③ ガイドブック及びパンフレット等の制作及びニュースリリースの配信

ア. Recrew特別増刊号の発行

第49号 高齢者いきいきあそび集 第8集

座って楽しむレクリエーション 歌体操・ストレッチ・あそび
みんなで楽しめるプログラム 70 選

（（財）日本宝くじ協会助成事業）

イ. レクリエーションガイドブック 第39号

子育て支援・子どもの居場所、介護予防、介護のレクリエーション
心の力を育む魔法のコツとお勧めメニュー 30 + 9

（（財）日本宝くじ協会助成事業）

ウ. ニュースリリースの配信

月刊 Recrew 誌の配布に合わせ、マスコミ約 700 社（新聞（全国・地方・スポーツ）、
テレビ局、ラジオ局、雑誌、タウン誌等）へのニュースリリースの配信を行った。また、
配信したニュースリリースをホームページ（レク・オンライン）で公開した。

（3）加盟団体による普及・啓発活動の促進

ア. 全国レクリエーション大会等の全国規模のイベントを通じて、加盟団体の公益的なレク
リエーション普及・啓発活動の促進への支援

イ. ブロックごとの連携・協力にむけた支援とブロック会議を開催・・・P 17 参照

ウ. 加盟団体運営代表者会議を開催・・・P 16 参照

(4) 国等との連携・協力を通して、国民各層への健康・生きがいづくりへの貢献

1) 生涯スポーツ振興等を通じての健康・生きがいづくりの充実への貢献

①おやこ元気アップ！事業（文部科学省子どもの体力向上推進事業委託事業）

子どもの体力向上を推進するために、子どもへの直接的な取組に加え、保護者に対して、子どもの体力向上や生活習慣の重要性について理解を促す本事業について、文部科学省より委託を受けて実施した。各都道府県での実施は、都道府県レクリエーション協会に再委託をして実施した。

ア. 実行委員会等の開催

おやこ元気アップ！事業の実施に向けた基本的事項に関する企画・立案及び募集や実施方法等を定める委員会を開催した。また、実行委員会で協議すべき事案等について、一部の実行委員と事務局等にて作業部会を設けて協議を行った。

<実行委員会委員（○印は委員長）>

品川区立小中一貫校伊藤学園校長 青木哲男

(財)日本レクリエーション協会 常務理事兼事務局長 浅野祥三

前全国国公立幼稚園長会 会長 岡上直子

慶応義塾大学体育研究所 教授 佐々木玲子

ルポライター 瀧井宏臣

山梨大学 教育人間科学部 准教授 中村和彦 ○

立教大学 コミュニティ福祉学部 教授 松尾哲矢

イ. 元気アップコーディネーター講習会の開催

平成22年4月24日、25日で、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、おやこ元気アップ！事業を推進していくコーディネーターを対象とした講習会を開催した。

ウ. 教材、資料、リーフレットの作成・配布

*おやこ元気アップ！事業参加者用教材「おやこでtouch！」配布

*リーフレット「おやこ元気アップ！事業のご案内」配布

エ. おやこ元気アップ！事業の実施

開催県レク協会	開催箇所数	参加者数	開催県レク協会	開催箇所数	参加者数
北海道レクリエーション協会	6	570名	滋賀県レクリエーション協会	2	232名
青森県レクリエーション協会	3	245名	京都府レクリエーション協会	3	428名
岩手県レクリエーション協会	3	311名	大阪府レクリエーション協会	2	295名
宮城県レクリエーション協会	4	298名	兵庫県レクリエーション協会	4	616名
秋田県レクリエーション協会	4	377名	奈良県レクリエーション協会	3	783名
山形県レクリエーション協会	3	380名	和歌山県レクリエーション協会	3	435名
福島県レクリエーション協会	5	469名	鳥取県レクリエーション協会	4	342名
茨城県レクリエーション協会	2	224名	島根県レクリエーション協会	4	387名
栃木県レクリエーション協会	4	368名	岡山県レクリエーション協会	2	184名
群馬県レクリエーション協会	3	357名	広島県レクリエーション協会	2	390名
埼玉県レクリエーション協会	2	186名	山口県レクリエーション協会	3	263名

千葉県レクリエーション協会	2	143名	徳島県レクリエーション協会	3	323名
神奈川県レクリエーション協会	3	381名	香川県レクリエーション協会	2	267名
東京都レクリエーション協会	2	241名	愛媛県レクリエーション協会	3	264名
新潟県レクリエーション協会	3	357名	高知県レクリエーション協会	2	175名
富山県レクリエーション協会	2	231名	福岡県レクリエーション協会	2	201名
石川県レクリエーション協会	3	301名	佐賀県レクリエーション協会	4	486名
福井県レクリエーション協会	2	208名	長崎県レクリエーション協会	3	307名
山梨県レクリエーション協会	4	419名	熊本県レクリエーション協会	2	251名
長野県レクリエーション協会	4	610名	大分県レクリエーション協会	2	233名
岐阜県レクリエーション協会	2	378名	宮崎県レクリエーション協会	2	193名
静岡県レクリエーション協会	2	163名	鹿児島県レクリエーション協会	3	248名
愛知県レクリエーション協会	4	774名	沖縄県レクリエーション協会	2	365名
三重県レクリエーション協会	2	203名	合 計	136会場	15,862

オ. 「おやこ元気アップ! 事業報告会議

*開催日：平成23年2月26日～27日

*会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

*内 容：各団体が「おやこ元気アップ! 事業」を開催した成果と課題を報告し、子どもの体力向上に資する取組のあり方について協議した。

*参加者：都道府県の元気アップコーディネーター2名、事務担当者1名が参加

カ. 調査、視察の実施

主催者、元気アップ親子セミナー参加者への当日、参加者への2ヶ月後等のアンケート調査及び実施会場視察を実施し、事業の評価を行った。

キ. 「元気アップ親子セミナー」平成22年度報告書の制作と配布

ク. 子どもの体力向上ホームページの管理運営

広く国民に体力の重要性や・運動スポーツに親しみ体を動かすことの楽しさをアピールするために開設している。

*平成22年4月～平成23年3月末のアクセス状況 23,503,225件（月平均1,958,602件）。

*主な更新内容

- ・ポスター標語の募集および入賞作等の掲載
- ・体育の日中央記念行事・スポーツ祭り2010の募集および開催報告
- ・平成21年度体力・運動能力調査結果の掲載
- ・メール等での問い合わせへの対処 など

② 「体育の日」中央記念行事の実施（「体育の日」中央記念行事实行委員会）

*開催期日：平成22年10月11日（月・祝）8時～15時

*会 場：国立スポーツ科学センター（JISS）、味の素ナショナルトレーニングセンター、西が丘サッカー場（東京都北区西が丘）

*主 催：文部科学省、（財）日本体育協会、（財）日本オリンピック委員会、（財）日本レクリエーション協会、（独）日本スポーツ振興センター、NPO法人日本オリンピック協会、読売新聞社

*後 援：NHK、（財）JKA、（財）自転車産業振興会、東京都、北区、北区教育委員会、

板橋区、板橋区教育委員会

*参加者総数：のべ14,300名

*実施内容：開会式、オリンピックふれあい大運動会、おりぴあんふれあいジョギング、各種スポーツ教室、レッツ・チャレンジ・おもしろスポーツ、ロープジャンプ体験交流会、他

③ 平成22年度子どもの体力向上啓発「ポスター」「標語」の募集と文部科学大臣賞受賞作品等決定

*応募総数：3,500作品

(総数「ポスター」1,137作品、「標語」2,363作品)

<「ポスター」の部 受賞者>

*文部科学大臣賞 *キャンペーン「ポスター」として採用

◇受賞者 兵庫県・大路 真央さん(加古川市立鳩里小学校・小5)

*財団法人日本レクリエーション協会会長賞

◇受賞者 青森県・近藤 礼菜さん(八戸市立柏崎小学校・小5)

その他、財団法人日本体育協会会長賞、財団法人日本オリンピック委員会会長賞、独立行政法人日本スポーツ振興センター理事長賞、体力づくり国民会議議長賞を4名が授賞、入選が4名。

<「標語」の部 受賞者>

*文部科学大臣賞 *キャンペーン「標語」として採用

◇作品 「あせきりり がんばるきみは、かっこいい」

◇受賞者 茨城県・米川 梨瑚さん(大洗町立夏海小学校・小4)

*財団法人日本レクリエーション協会会長賞

◇作品 「がんばろう、あせをながして、いいえがお」

◇受賞者 鹿児島県・北村 美咲さん(南種子町立大川小学校・小1)

その他、財団法人日本体育協会会長賞、財団法人日本オリンピック委員会会長賞、独立行政法人日本スポーツ振興センター理事長賞、体力づくり国民会議議長賞を4名が授賞、入選が4名。

*上記の表彰を「体育の日」中央記念行事にて行った。

④ (独) 日本スポーツ振興センター助成事業による国民各層への健康・生きがいつくりへの貢献

ア. 高齢者の元気づくりサポーター養成事業・・・P6を参照

イ. 運動が苦手の人でもスポーツ好きになる！ニュースポーツ指導者セミナー IN 神奈川

開催地県レクリエーション協会、加盟種目団体と連携しながら、これまでスポーツ・レクリエーションに親しんでいなかった人たちがスポーツ・レクリエーションに親しめるような指導者づくりを目的に開催

神奈川県内2地区での開催を予定していたが、1地区は中止となった。

<大井町会場> 平成23年2月29日(土) 12:30~16:30 大井町総合体育館

参加者: 体育指導委員、スポーツ指導者、レクリエーション指導者等50名

種目: キンボール、スポーツ吹矢、フライングディスク(ドッジビー)

<横須賀会場> 東日本大震災により中止

ウ. 潜在的な指導者発掘と結集による事業展開モデル・・・P16を参照

エ. 子どもの居場所を活用した子ども体力向上プログラムの展開・・・P13を参照

オ. 高齢者障がい者のための指導者養成カリキュラムの教育効果の把握・評価研究事業

公認指導者等レクリエーションの専門家と理学療法士、保健師等高齢者、障害者の健康増進の専門家とが共同で取り組み、実践力の高いボランティア指導者を育成するカリキュラムを開発した。また、そのカリキュラムにのっとり、静岡県御前崎市でモデル養成講習事業を実施(12回)し、その成果を踏まえて、実施マニュアルを作成、配布した。

カ. 総合型地域スポーツクラブの創設及び既存クラブの自立支援事業

=スポーツ振興くじ助成事業=

本事業は、(財)日本レク協会がレクリエーション運動の基本方針として掲げている「レクリエーション有資格者や加盟団体とともに、公益性をより一層高めるレクリエーション活動の展開」を目指し、拠点型事業の実施機会として位置づけて行った。

*創設支援地区: 北海道札幌市、静岡県川根本町の2地区

*自立支援地区: 神奈川県川崎市、愛知県碧南市の2地区

キ. 生涯スポーツ・体力づくり全国会議2011

文部科学省、関連団体と共に生涯スポーツ環境の整備を目指し、スポーツ振興に携わる各界各層の方々が一堂に会して、豊かなスポーツライフの実現について検討し、その方向性を探った。

*主催: 文部科学省、生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会((財)日本レクリエーション協会、(財)日本体育協会、(財)日本体育施設協会、(財)スポーツ安全協会、(社)全国体育指導委員連合、(社)スポーツ健康産業団体連合会、(財)日本障害者スポーツ協会、(財)健康・体力づくり事業財団、神奈川県教育委員会)

*期日: 平成23年2月3日(水) 10:00~18:30

*開催地: 神奈川県横浜市

*参加者: 1,051名

*内容: 全体会(トークセッション「スポーツの可能性」乙武洋匡氏・藤木麻祐子氏)、分科会、関係団体展示見学会

ク. 全国いつでもチャレンジ・ザ・ゲーム大会(年間通じての開催)。

いつでも、どこでも、やっておもしろく、見て楽しい、記録に挑戦するゲームとして平成元年からスタートしている全国いつでもチャレンジ・ザ・ゲーム大会を行った。

*実施期日 平成22年4月1日から平成23年3月31日までの1年間

*種目と記録申請件数

(ア) キャッチング・ザ・スティック 251件

(イ) ロープ・ジャンプ X	656件
(ウ) ネット・パス・ラリー	180件
(エ) ペア・リング・キャッチ	924件
(オ) ゴム・ダンス・“ステッピョン”	139件
(カ) パス&ゴー	3件
(キ) ロープ・ジャンピング・10	44件
(ク) エンジョイ・パス・ラリー	4件
(ケ) グループ・バンブーダンス	6件
(コ) リング・キャッチ	8件
(サ) サークル・ジャンプ	8件
(シ) ヒューマン・ロコモーション	1件
(ス) バンブー・タイムレース	22件
(セ) ドリブル・リレー	122件
(ソ) ドンパー・リレーII	5件
(タ) フロート・パス・ラリー	15件
(チ) ロープ・ジャンプ・エクストラ	378件※

※ロープジャンプ・エクストラは、「第2回ロープジャンプ小学生大なわとびNo.1 決定戦地区国内予選大会出場373チームを含めた数。

*チャレンジ・ザ・ゲーム普及審判員数 2382名

*チャレンジ・ザ・ゲーム認定員数 496名

ケ. 「チャレンジ・デー2010」(財) 笹川スポーツ財団主催への事業協力

チャレンジ・ザ・ゲームは、平成13年度より笹川スポーツ財団が主催する「チャレンジ・デー」事業の「全国共通イベント」(参加自治体で、同じ種目を共通実施し記録を競う)の公式種目として参画している。平成22年度は、ロープ・ジャンプ“X”とロープジャンプ・エクストラを実施した。

*ロープ・ジャンプ“X” 478チーム

*ロープ・ジャンプ・エクストラ 9チーム

コ. 「パナソニック・キッズスクールCUP第2回ロープジャンプ小学生大なわとびNo.1 決定戦(共催(株)フジテレビジョン、協力パナソニック株式会社の支援。放映:(株)フジテレビジョン。

全国いつでもチャレンジ・ザ・ゲーム種目「ロープ・ジャンプ・エクストラ」による小学生大会」を株式会社フジテレビと共催してパナソニック株式会社の特別協賛を得て開催した。

なお、「東北地方太平洋沖地震」の影響により、平成23年3月21日開催予定の決勝大会は中止した。

○地区予選大会(全国9地区)

(ア) 関東・甲信越地区予選大会:2011年1月8日(土)

(イ) 東北地区予選大会:2011年1月10日(月・祝)

- (ウ) 九州地区予選大会：2011年1月15日（土）・福岡市民体育館（福岡県）
 - (エ) 北海道地区予選大会：2011年1月22日（土）・札幌市北区体育館（北海道）
 - (オ) 四国地区予選大会：2011年1月29日（土）・伊予市民体育館（愛媛県）
 - (カ) 東海・北陸地区予選大会：2011年1月30日（日）・愛知県武道館（愛知県）
 - (キ) 中国地区予選大会：2011年2月11日（金・祝）・広島サンプラザ ホール（広島県）
 - (ク) 沖縄地区予選大会：2011年2月13日（日）・中城村民体育館（沖縄県）
 - (ケ) 近畿地区予選大会：2011年2月19日（土）・パナソニックアリーナ（大阪府）
- 海外予選：中国、インド、ベトナム、チェコ、イギリス、ブラジル、ドイツ、アメリカにて海外予選を実施した。（出場チームは省略）
- 「第2回ロープジャンプ小学生大なわとび No. 1 決定戦決勝大会」出場予定チーム向け公式記録会の開催

決勝大会を中止としたため、出場予定であった国内12チームのうち、被災地外の11チームについて、全国大会に変わる記念行事として、「公式記録会」を開催した。

選抜地区	学 校 名	チ ャ ム 名	予選ポイント
北海道	札幌市立清田緑小学校	Dream 絆一's 32	4,800pt
東北地区	塩竈市立第一小学校（宮城）	塩一小 大番狂わせ	4,720pt
関東・甲信越	川口市立舟戸小学校（埼玉）	舟戸学園なわとびクラブ 絆	6,470pt
	川口市立舟戸小学校（埼玉）	舟戸学園なわとびクラブ 夢	5,230pt
東海・北陸	東海市立 横須賀小学校（愛知）	チーム「エルフ」	6,710pt
	豊橋市立 豊南小学校（愛知）	翔～ TRIPLE WINGS ～	6,164pt
近畿	東大阪市立池島小学校（大阪）	超旋	6,840pt
	西宮市立瓦林小学校（大阪）	K.B.Hoopers	6,259pt
中国	岡山市立 旭操小学校（岡山）	旭操勝井 NEXT	5,240pt
四国	松山市立 椿小学校（愛媛）	椿 A	4,700pt
九州	八女市立長峰小学校（福岡）	チーム長峰	4,960pt
沖縄	那覇市立垣花小学校（沖縄）	花っ子 jumpers ☆	4,530pt
海外ドイツ	スポーツクラブ・エアバッハ・1888	ファニー・グレイプス	3,103pt
海外ブラジル	コレジオブrazilリアデサンパウロ	カナリニョ・ブラジル	2,860pt
海外ベトナム	ビンツイ小学校	ベトナムキムドン	3,930pt
海外中国	金盟（キンメイ）小学校	クワイラシャオドイ	3,070pt

（5）国際交流の促進

- 1) 全米レクリエーション・公園協会（NRPA）との「公園・レクリエーション分野における専門家・技術者及び市民の国際交流に関する議定書」に基づく交流事業として第64回全国レクリエーション大会IN静岡に全米レクリエーション・公園協会より、ロバート・ホール氏を講師として招請し、研究フォーラム、大会の視察並びにレクリエーション協会関係者との交流をはかった。

2) 第64回全国レクリエーション大会 I N 静岡に社団法人 韓国余暇レクリエーション協会より14名が参加し、大会の視察並びにレクリエーション協会関係者との交流をはかった。

3) 日中青少年交流事業

日中の同世代の青少年との交流や、分野ごとの多面的な視察・交流プログラムを通じて、相互理解を深め、両国の長期的な関係発展の基礎となる国民相互間、特に青少年間の信頼関係を醸成することを目的とする事業で、中国政府の招待により派遣される「2010 日本青少年訪中団体」は、高校生、各分野の社会人青年により構成され、協会職員2名参加し、10月19日から25日まで、北京他地方各地で交流や地域参観などの活動を行った。

(6) レジャー・レクリエーションに関わる調査・研究の実施

課程認定校研究連絡会議と連携し、研究者、教育者の育成、支援及び、関係者で共有できる成果の充実を目指して、10題の授業案、教材開発、効果測定等の研究に対する助成を行った。(成果はレジャー・レクリエーション研究所所報にて公開する)

(7) その他のレクリエーション活動の普及・啓発

1) 顕彰・褒章制度の整備

① 生涯スポーツ功労者表彰(文部科学大臣表彰)

地域におけるスポーツ・レクリエーションの健全な普及及び発展に貢献し、功績顕著なレクリエーション指導者を、日本レクリエーション協会が推薦し下記の方々が生涯スポーツ功労者として認められ、平成22年10月8日(金)中央合同庁舎第7号館3階講堂(東京都千代田区)にて文部科学大臣より表彰された。

伊藤 滋子 氏	宮城県南小泉シルバースポーツ教室 指導者
大澤 征子 氏	(社)日本3B体操協会 理事長
大槻 禮子 氏	(特非)奈良県レクリエーション協会 副会長
笠原 憲昭 氏	福島市レクリエーション協会 顧問
小林 正子 氏	国際スポーツチャンバラ協会 事務局長
鯖戸 善弘 氏	愛知県レクリエーション協会 講師
清水 津利江氏	京都府レクリエーション協会 監事
田中 伊津子氏	岐阜県郡山市レクリエーション協会 会長
玉置 博康 氏	和歌山県レクリエーション協会 副会長
米田 潤二 氏	(特非)徳島県レクリエーション協会 副会長

② 文部科学大臣社会教育功労者表彰

平成22年度は、本協会理事(現評議員)で元万有製薬(株)代表取締役会長兼社長の長坂健二郎氏が授賞されました。

③ 内閣府 エイジレス章

内閣府では、65歳以上で自由にいきいきとした生活を送ること（「エイジレスライフ」）を積極的に行っている高齢者や団体などを広く紹介している。

平成22年度は、神奈川県レクリエーション協会所属の波多野良子氏が受章された。

④ レクリエーション運動普及振興功労者表彰（会長表彰）

レクリエーション運動の普及・発展に多大なる功績をあげた方を、加盟団体より推薦を受け、静岡県で開催された、「第64回全国レクリエーション大会IN静岡」において表彰した。

*被表彰者	都道府県レクリエーション協会推薦	107名
	種目・領域加盟団体推薦による推薦	9名
	合 計	116名

⑤ 紺綬褒章

平成22年度は、紺綬褒章の該当者はなかった。

2) 理 事 会

○第1回 平成22年5月28日（金） 16:00～18:00 中野サンプラザ

<議 題>

- ① 平成21年度事業報告（案）について
- ② 平成21年度収支決算報告（案）について
- ③ 評議員の変更について
- ④ 加盟種目団体の申請について
- ⑤ 新公益法人制度施行に伴う、定款（案）について
- ⑥ 報告事項

○第2回 平成23年3月28日（月） 15:00～17:00 倫理文化センター

<議 題>

- ① 平成23年度 事業計画（案）について
- ② 平成23年度 収支予算（案）について
- ③ 新法人における理事長・専務理事・常務理事の選任（案）
- ④ 公益財団法人日本レク協会への移行に伴う規定類の整備方針
- ⑤ 報告事項
 - ・東日本大震災に関わる支援の方向について
 - ・加盟団体の名称変更について
- ⑥ その他

3) 評議員選定委員会・評議員会

<評議員選定委員会>

平成22年5月26日(水) 10:00~12:00 日本レク協会会議室

<議 題>

- ① 議長選出の件
- ② 最初の評議員選任の件

<評議員会>

平成22年5月28日(金) 13:00~15:00 中野サンプラザ

<議 題>

- ① 平成21年度事業報告(案)について
- ② 平成21年度収支決算報告(案)について
- ③ 平成22年度事業計画及び収支予算について
- ④ 理事の選出について
- ⑤ 新公益法人制度施行に伴う、定款(案)について
- ⑥ 報告事項
 - ・第63回全国レクリエーション大会(長崎)終了報告
 - ・第23回全国スポーツ・レクリエーション祭(富山)
 - ・第64回全国レクリエーション大会(静岡)について

4. レクリエーション活動のための用具・書籍等の販売

本事業は、広く国民が多様なレクリエーション活動に親しむとともに、心身の健康づくり、生きがいづくり、コミュニケーション促進につながるレクリエーション活動の普及・啓発を拡充させるとともに、本協会にとって、実施する公益事業の継続及び拡充のための基盤整備に不可欠な事業である。

今年度は、特に以下のような事業を展開し販路の拡大を行なうと共に販売収益のより一層の増額を目指した。

- ① 介護予防、子育て支援、スポーツライフをサポートする新たな用具・書籍の開発と発掘に努め、新商品数を約50種ほど増やした。
- ② 全国の社会福祉協議会や老人クラブ連合会等への発信件数を5,000件ほど増やし情報発信の拡充を図った。
- ③ 広くより多くの方々への情報発信策として電子情報（E-BOOK）を採用
- ④ 都道府県レクリエーション協会との協力体制を密にし、用具・書籍等を各種講習会・イベント等で紹介するコーナーや販売コーナーの設置を展開。
- ⑤ 販売コーナー実施県…千葉県／新潟県／福島県／島根県／宮城県／富山県
- ⑥ 新種目の中から、子どもから高齢者層まで楽しめる「ラダーゲッター」の紹介講習を全国10ヵ所で実施し、その普及振興を進める人材を養成した。
○「ラダーゲッター」講習実施県…山形県／青森県／奈良県／徳島県／大分県／茨城県／神奈川県／東京都／長野県／香川県

以上の施策の実行により、新商品の売上の割合が前年度（平成21年度）の全売上額に対して2%であったものが7%に伸び、今年2月の段階では前年度より1,200万円増の売上見込みであったが、年間で一番の繁忙期ともいえる3月期に起きた東日本大震災の影響で、逆に-330万円の減に転じた。

今後も一層、社会のニーズに答えるレクリエーション運動・事業と密着した用具・書籍等の販路の拡大を進め、元気な社会・地域づくりに貢献し得るものとする。

5. 新公益法人制度への対応と財政基盤の改善

- ① 新公益財団法人への移行については、平成22年7月に内閣府公益認定等委員会に申請を行い、平成23年3月29日に内閣総理大臣から移行申請書が交付され、4月1日に新法人への登記が完了し、平成23年4月1日より「公益財団法人日本レクリエーション協会」としてスタートした。
- ② レクリエーション運動の本部事務局として、既出1～4の事業執行に対して、可能な限りの経費節減を図りつつ効率的な事務局運営をはかり、財政基盤の改善に向け、一定の成果を上げることができた。

[平成 22 年度都道府県別公認指導者数一覧]

(平成 23 年 3 月 31 日現在)

	所属協会	指導者数	インストラクター	余暇開発士	コーディネーター	福祉レクワーカー	のべ数
01	北海道レク協会	4,333	4,242	9	112	72	4,435
02	青森県レク協会	1,576	1,487	2	25	126	1,640
03	(特)岩手県レク協会	1,461	1,400	4	56	75	1,535
04	(特)宮城県レク協会	2,144	1,934	7	93	189	2,223
05	秋田県レク協会	879	824	3	40	42	909
06	山形県レク協会	728	625	7	17	111	760
07	福島県レク協会	1,779	1,692	10	46	105	1,853
08	茨城県レク協会	2,059	1,796	24	66	363	2,249
09	栃木県レク協会	1,661	1,594	10	41	256	1,901
10	群馬県レク協会	2,058	1,990	7	28	159	2,184
11	埼玉県レク協会	2,847	2,717	54	92	161	3,024
12	千葉県レク協会	2,914	2,790	69	104	130	3,093
13	(特)神奈川県レク協会	2,954	2,820	58	107	99	3,084
14	(社)東京都レク協会	5,254	4,892	159	243	353	5,647
15	(社)新潟県レク協会	3,422	3,319	263	117	700	4,399
16	富山県レク協会	1,125	1,079	10	48	35	1,172
17	(財)石川県レク協会	742	714	8	29	45	796
18	福井県レク協会	771	716	8	36	111	871
19	山梨県レク協会	368	357	6	10	8	381
20	長野県レク協会	1,488	1,435	14	54	71	1,574
21	(特)岐阜県レク協会	1,599	1,516	10	43	142	1,711
22	静岡県レク協会	2,327	2,212	21	68	205	2,506
23	愛知県レク協会	3,875	3,618	21	162	320	4,121
24	(社)三重県レク協会	1,457	1,389	11	67	104	1,571
25	滋賀県レク協会	648	591	12	33	62	698
26	京都府レク協会	1,124	1,054	15	60	71	1,200
27	(財)大阪府レク協会	3,985	3,695	82	189	280	4,246
28	(特)兵庫県レク協会	3,708	3,512	160	97	303	4,072
29	(特)奈良県レク協会	512	481	17	23	27	548
30	和歌山県レク協会	793	759	8	26	70	863
31	鳥取県レク協会	577	558	3	16	39	616
32	島根県レク協会	1,084	1,051	5	32	48	1,136
33	岡山県レク協会	1,851	1,677	14	70	400	2,161
34	広島県レク協会	2,914	2,507	63	90	403	3,063
35	(社)山口県レク協会	1,552	1,502	11	48	149	1,710
36	(特)徳島県レク協会	1,040	896	7	16	143	1,062
37	(特)香川県レク協会	1,300	1,280	5	15	37	1,337
38	(特)愛媛県レク協会	1,877	1,823	10	31	118	1,982
39	高知県レク協会	913	897	1	13	26	937
40	(特)福岡県レク協会	4,005	3,831	65	156	179	4,231
41	佐賀県レク協会	971	947	9	16	201	1,173
42	(特)長崎県レク協会	1,785	1,746	10	36	79	1,871
43	熊本県レク協会	1,648	1,616	3	27	62	1,708
44	大分県レク協会	1,375	1,312	13	57	64	1,446
45	宮崎県レク協会	1,330	1,292	3	45	43	1,383
46	鹿児島県レク協会	1,864	1,730	11	56	305	2,102
47	沖縄県レク協会	1,351	1,305	3	58	59	1,425
	合 計	88,028	83,220	1,325	2,914	7,150	94,609